

4月17日(木)に3年生対象に全国一斉に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るために毎年行われているものです。内容は、「知識」と「活用」を一体化した問題からなり、国語・数学・理科の3教科で実施されました。また、「生徒質問紙」により、学習意欲・環境・方法・生活など各生徒の生活習慣や学習内容を把握するための調査もありました。本校の結果が届きましたのでお知らせします。

1 結果の概要

(1) 【国語】 O成果 ▲課題 *今後の対策

知識及び技能に関して「我が国の言語文化に関する事項」についての正答率は、全国平均を上回っている。思考力、判断力、表現力等は、全国平均を下回っている。

- ○表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
- ○事象や行為を表す語彙について理解している。
- ▲読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができる。
- ▲文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。
- ▲資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。
- ▲自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができる。

今後の指導のポイント

- *授業や読書指導等を通して、物語を読み深める学習を継続していく。
- *自分の考えを文章にまとめる活動を今以上に多く設定し、作文・推敲に慣れさせる。
- *本や新聞を通して活字に触れる機会を積極的に設けると共に、読んで理解したことを用いて話し合ったり書いたりするといった言語活動の場面を積極的に設定する。

(2)【数学】 O成果 ▲課題 *今後の対策

4つの領域「データの活用」「数と式」「図形」「関数」「データの活用」に関する問題の正答率は全国平均を下回っている。「知識・技能」「思考・判断・表現」に関する問題の正答率は全国平均を下回っている結果となっている。

- ○多角形の外角の意味を理解する。
- ○事象に即して、グラフから必要な情報を読み取る。
- ○事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において反例をあげる。
- ▲1次関数の変化の割合の意味を理解する。
- ▲不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。
- ▲統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善する。

今後の指導のポイント

- *基礎的な学習内容を理解できるよう、授業においてアウトプットする場面を積極的に設ける。
- *ペア学習やグループ学習の中で、数学的な表現を用いて自分の考えについて説明し合う場面を繰り返し設定する。
- *授業の終わりに、解答を導き出した過程を振り返り、どこでつまずいたのか、どのように改善できるのかを考える時間を充実させる。

問題形式では選択式では無答率が低く(0%)、記述式では無答率が高かった。

評価の観点では、知識・技能が全国平均とほぼ同じで、思考・判断・表現が全国平均を下回っていた。学習指導要領の領域では「粒子」「生命」が全国平均とほぼ同じで「地球」が全国平均を下回っている。

- ○小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大き さに着目して分析して解釈できる。
- ○元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いている。
- ○加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いている。
- ▲電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いている。
- ▲水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いている。
- ▲科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活 との関連などに着目した振り返りを表現できる。

今後の指導のポイント

- *日常の生活経験と抽象的な原理を結びつける授業を引き続き展開し、より結びつきを意識できるよう、発問を工夫する。
- *誤概念が生じやすい問題を、全体で共有し繰り返し確認する。
- *小テストやペアワーク等でフィードバックを行うことで、知識の定着を図る。
- *振り返りの視点を示し、探究の振り返り活動を充実させることで、科学的に探究を振り返る力を身につけさせる。

2 生徒質問紙から見られる生徒の姿

<○成果 ▲課題>

(1) 自分自身について

- ○「朝食を毎日食べていますか」の割合は全国平均を上回っている。
- ▲「自分には、よいところがあると思いますか」の割合は全国平均を下回っている。

(2) 人間関係について

- ○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できますか」の割合は全国平均を上回っている。
- ▲「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 の割合は全国平均を下回っている。

(3) 学習について

- ○「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」の割合は全国平均を上回っている。
- ▲「平日、1日あたりどれくらい勉強するか」「休日、1日あたりどれくらい勉強するか」で2時間以上勉強する 生徒の割合は全国平均を下回っている。

(4) 地域や世界との関わりについて

▲「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の割合は全国平均を下回っている。

(5) 学校での学習・授業について

- ○「ICT 機器で学校のプレゼンテーションを作成することができると思いますか」「1、2 年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の割合は全国平均を上回った。
- ▲「授業で、ICT機器を、どの程度使用しましたか」の割合で、ほぼ毎日使用したの項目が全国平均を大きく下回った。また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の割合が全国平均を下回った。

(6) 学級について

▲「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の 割合は全国平均を下回った。

3 全国学力・学習状況調査の分析から

◎校内研修で、『主体的に学び、豊かに表現できる生徒の育成』 ~ 「教科の魅力を伝える指導の工夫」を通して ~をテーマに、各教科の特性を生徒に味わわせ、生徒が主体的に学習に取り組むような支援を行っています。授業に おいては、国語・数学・理科から見られる共通の課題でもある「理由や根拠をもとに、説明を行ったり、表現したり すること」を目指し「振り返り」を重視した授業展開を行っています。生徒が授業を振り返ることで、課題解決に向け、自分の考えをきちんと持ち、表現しお互いの考えを伝え合いながら、個々の考えをより確かなものにする学習活動の工夫を進めてまいります。

◎人間関係について悩み事などの相談ができていると感じている生徒が多いことがわかりました。一方で「いじめ」については、いけないことだという意識が育っていない生徒も見られるので、いじめは許されないという共通認識を持ち、多様性を認め合い、互いの人権を尊重する心を育む指導行っていまいります。

◎家庭での学習時間が平日、休日ともに全国平均を下回っていることが分かりました。この件については基礎学力の 定着にも影響があることから、学校運営協議会等で話題にして地域の小学校や家庭地域と連携し、家庭学習の習慣化 について検討していきたいと考えています。

◎授業に関しては、先生は間違い等を分かるまで教えてくれると感じている生徒の割合が高いことが分かりました。 一方で自分で課題を立てて情報を集め整理して学習活動に取り組もうという意識が低いことが分かりました。生徒が 主体的に取り組む=自律した学習者の育成を目指し授業改善に努めてまいります。

引き続き、学校・家庭・地域と連携を図り、生徒の成長を後押しできるよう指導してまいりたいと考えています。